

四条金吾殿御消息

文永八年九月二日 五〇歳

度々の御音^{おとずれ}申しつくしがたく候。さてもさても去ぬる十二日の難^竜のとき、貴辺^竜たつのくちまでつれさせ給ひ、しかのみならず腹をきらんと仰せられし事こそ、不思議とも申すばかりなけれ。

日蓮過去に妻子・所領^{けんぞく}・眷属^{けんぞく}等の故に身命を捨てし所^幾いくそばくかありけむ。或は山にすて、海にすて、或は河、或はいそ等、路のほとりか。然れども法華経のゆへ、題目の難^幾にあらざれば、捨てし身^{こむ}も蒙^幾る難^幾等も成仏のためならず。成仏のためならざれば、捨てし海・河も仏土にもあらざるか。

今度法華経の行者として流罪・死罪に及ぶ。流罪は伊東、死罪はたつのくち。相州のたつのくちこそ日蓮が命を捨てたる処なれ。仏土^劣におとるべしや。其の故はすでに法華経の故なるがゆへなり。経に云はく「十方仏土の中には、唯一^{ただ}乗の法のみ有り」と、此の意なるべきか。此の経文に一乘法と説き給ふは法華経の事なり。十方仏土の中には法華経より外は全くなきなり。「仏の方便の説をば除く」と見えたり。若し然らば日蓮が難^値にあう所ごとに仏土なるべきか。娑婆世界の中には日本国、日本国の中には相模国、相模国の中には片瀬、片瀬の中には竜口^{たつのくち}に、日蓮が命をとゞめをく事は、法華経の御故なれば寂光土ともいうべきか。神力品に云はく「若しは林中に於ても、若しは園中に於ても、若しは山谷^{せんごくこうや}曠野^伴にても、是の中に乃至般涅槃したまふ」とは是か。

かゝる日蓮にともなひて、法華経の行者として腹を切らんと給ふ事、かの弘演^{こうえん}が腹をさいて主の懿公^{いこう}がきもを入れたるよりも、百千万倍すぐれたる事なり。日蓮靈山にまゐりて、まず四条金吾こそ、法華経の御故に日蓮とを^同なじく腹切らんと申し候なりと申し上げ候べきぞ。

又かまくらどのの仰せとて、内々佐渡の国へつかはすべき由承り候。三光天子の中に月天子は光物^{ひかりもの}とあらはれ竜口の頸^{くび}をたすけ、明星天子^{みょうじょう}は四・五日已前に下りて日蓮に見参し給ふ。いま日天子ばかりのこり給ふ。定めて守護あるべきかと、たのもしたのもし。法師品に云はく「則ち変化^{すなわ}の人を遣^{へん}はして、之が為^{えい}に衛護^ごと作さん」と、疑ひあるべからず。安樂行品に云はく「刀杖も加へず」と。普門品に云はく「刀尋^ついで段々に壊れなん」と。此等の経文よも虚事^{そらごと}にては候はじ。強盛の信力こそありがたく候へ。恐々謹言。

文永八年九月二十一日

日 蓮 花 押

四 条 金 吾 殿